1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070001195
法人名	有限会社　だんらん
事業所名	グループホーム　だんらん
所在地	福岡県築上郡吉富町大字直江77-4
自己評価作成日	平成25年2月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社　アーバン・マトリックス　評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6　北九州ビル8階		
訪問調査日	平成25年3月2日	評価結果確定日	平成25年3月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームだんらんは、「地域とのつながりを大切にする事」を理念にかかげ平成16年に設立された。平成23年度には新しく1ユニット増床し、より地域のニーズに応えられるようになった。場所は、JR三毛門駅または吉富駅より車で5分程度で旧国道10号線沿いに位置している。近隣には公共施設、スーパー、小・中学校等があり、学童達とすれ違う際には挨拶を交わしている。また地域に対して違和感なくとけ込めており、地域住民に対して施設を開放している。地域の祭り事にも積極的に参加したり、また施設行事にも回覧板で地域の方々にお知らせしたりして親睦を図っている。職員も地域密着型のサービスということを意識しつつ、またご利用者やご家族の視点から物事を考えながらケアを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

主要道路沿いに位置し、敷地内には、グループホーム2ユニット、小規模多機能ホーム、有料老人ホームが隣接している。開設して10年目を迎えようとする中、自治会長や民生委員をはじめとする地域の方々との交流や連携を活かした活動を行い、また、昨年度より1ユニット増設されたことにより、地域の中での存在も高まっている。今年度は、様々な点で業務の見直しにも取り組んでおり、更に質の高いサービスの提供や、働きやすい職場環境作りへと繋げていく事が大いに期待されるところである。少しずつ重度化へと移行している中で、管理者、職員は、個別の思いに向き合い、心身の変化に対応しながら、馴染みの関係性や生活習慣の継続等、「暮らし」を大切にしたかかわりを念頭に置き、日々の支援を行っている。

V．サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
64	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護理念は、常に見える場所に掲げており職員が常に意識できるようにしている。会議及びカンファレンスにおいて理念に基づいた支援が行えるようその都度確認をしている。	地域密着型サービスとしての意義を踏まえた、「私達の介護理念」を掲げている。入居者の方々との関わりや、地域との関係性について、常に「今出来る事」は何かを模索し、実践に結び付けようとする姿勢は、様々な取り組みから伝わってくる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事や祭り事には積極的に参加し、地区の一員として認められるように努めている。また施設での行事参加などを地域住民に呼びかけている。	自治会に加入している。回覧板を通じて地域情報の収集を行い、ホームとしても、行事や歯科医による口腔ケアについての研修等を案内している。職員が清掃活動に参加したり、近隣の御神楽参加に向けて、地域の方よりスロープ設置が検討される等、相互に働きかけが行われ、地域との関係性を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設を常に開放して、地域の方々がいつでも相談や交流をもてるようにしている。また勉強会や行事への参加を訪問や回覧板などを使って、呼びかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域関係者・家族を招き定期的に会議を行っている。施設の状況説明や福祉制度に関する情報交換等を行ったり、意見をくみ上げ施設改善に前向きに取り組んでいる。	隣接する小規模多機能型事業所との合同で定期開催されている。家族、自治会長、民生委員、町役場担当者というメンバー構成に加え、今年度は地域の派出所より参加を得る機会もあった。地域情報の共有や、事業所の取り組みを伝え、運営に活かしている。今後は消防署への参加要請を行う予定がある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的な会議への参加をしてもらったり、施設改善の為の相談を担当者にするようにしている。またわからないこと等は、随時相談するように心掛けている。	運営推進会議には、町役場担当者、及び地域包括支援センター職員の参加を得ており、随時、不明な点や運営上の相談を行っている。また、ケースワーカーの方との連携も図り、情報共有や報告を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は原則行っていない。新人職員にも書面にて方針を伝え、拘束禁止は徹底している。生命に関わる事例等発生した場合は、家族に同意を頂き対応するようにしている。	内部研修を実施し、職員の共有認識を図るよう、継続して取り組んでいる。日中、玄関の施錠は行われていない。言葉や対応による抑制についても意識を高めるよう、振り返る機会を持ちながら、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	新人オリエンテーション時、書面をもって指導を行っている。虐待について職員全員が理解し、防止に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	新しい情報や知識は職員間で共有できるように、施設内での学習会を開き、周知徹底を行っている。	権利擁護に関する制度について、事務室入口に資料を用意し、家族への情報提供を行っている。現在、制度を活用している方はいないが、職員の学ぶ機会の確保に努め、必要時には活用できるよう体制の整備に努めている。今後は、関係機関との連携を図り、家族や地域に向けた情報発信の機会等も検討して欲しい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時にはご家族・ご本人に十分な説明を行い、質問等があればその場で解決するようにしている。納得されたうえで、契約書に署名・捺印を頂いている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や運営懇談会を中心に、カンファレンスや面会時にも積極的に家族の意見を取り入れている。	隣接する小規模多機能ホームや有料老人ホームと合同で、家族懇談会が実施されており、様々な視点から、活発な意見交換や相談、情報共有が図られている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニットで会議を行い、それを管理者会議で提案している。決まったことは、必要に応じて現場へおろしている。	各ユニットの独自性が発揮され、記録様式や研修体制は異なる。小規模も含む管理者会議を通じて、情報共有や意見交換を行い、サービス向上に努めている。ユニット会議は全員参加を基本とし、不参加の場合は議事録にて周知を図っている。独自性や連携を、それぞれ発揮していく為にも、情報の整理についても検討が期待されます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修会に関して補助を出したり、努力の見られる職員に関しては賞与時に査定を行い評価を行っている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別、年齢、学歴に関係なく「やる気」を重視した採用を行っている。家庭の事情等で時間に限りのある職員に関しても、出来るだけ配慮し働きやすい職場作りを目指している。	職員の採用にあたっては、年齢や性別による排除は行われていない。65歳定年制は設けているが、再雇用も可能となっており、現在、20代から70代までの職員が勤務している。休憩室や時間の確保、勤務形態への配慮、産休の取得等、働きやすさへの配慮に努めている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	個人情報保護、虐待防止に関しては、勉強会を行うなどして職員間の意識を高める努力をしている。	町の広報誌等にて、人権に関する研修について情報収集を行っている。高齢者虐待防止や身体拘束、認知症ケア等の内部研修を通じて、人権意識を高めるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修や外部研修への参加を積極的にすすめている。また未経験者等には、経験者がその都度理論的な説明を行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所からの見学者の受け入れ、またこちらから様々な施設をまわり見学等を行っている。地区のグループホーム協議会などがまだないため、全体的な交流は今後の課題である。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	どのような話でもまずは傾聴し、相手を受け入れることから行っている。本人を決して否定せず、安心感をもって生活が送れるよう心掛けている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安などがクリアになるまで話を聞き、どのような相談でも家族の都合に合わせて話し合う場をもっている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	様々なサービスの紹介を行い、状態に応じて必要があれば他施設の紹介を行っている。また家族の手間を軽減するため、他施設との連絡調整を行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分で出来ることは自分で行ってもらい、食事や掃除などの作業は共同で行っている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月一回ご本人の様子を「だんらん便り」で家族に伝えている。また本人から希望や訴えがあったときは、家族に連絡を行う。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地区の祭りや行事に参加を行い、馴染みの関係を維持できるようにしている。また施設行事にも地区の方々を招待している。	入居時や日常の中での聴き取りから、馴染みの関係性の把握に努めている。また、新たにセンター方式を参考にしたアセスメント様式を取り入れ、情報収集を行っている。友人に会いたいとの希望に応えるよう連絡を取ってみたり、自宅周辺へのドライブや美容院の継続利用を支援している。現在、個別の望みを叶えていく取り組みを検討している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや施設行事などになるべく参加してもらい、間に職員が入りつつコミュニケーションをとるようにしてもらってる。またトラブル等は事前に回避出来るようなるべく職員が見守っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了したとしても、本人や家族から相談があったときは、いつでも受け入れる体制をとっている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	（12）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ひとり一人の趣味や趣向を把握し、その人らしい生活が出来るように努力している。	センター方式を参考にしたアセスメント様式を用い、ライフスタイルや馴染みの関係性等についても情報収集を行っている。また、個別記録の内容は、心情の変化等、日々の様子がわかりやすく記載され、職員間の共有やカンファレンス等での検討を通じて、思いや意向の把握につなげるよう取り組んでいる。現在、思いや願いを叶える為の取り組み実施を検討している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、本人、その他関係者より情報収集している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ひとり一人のペースに合わせて、その時々の状態を観察しながら支援を行っている。また職員間の情報の共有を図っている。		
28	（13）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	主治医の意見、本人・家族の意見を十分介護計画に反映出来るように、常に密な関係を築いている。	本人、家族の意向や、医師の意見を踏まえ、介護計画を作成している。地域との交流や機能維持、活用の視点を盛り込み、状況に応じた期間設定を行っている。ユニットにより期間は異なるが、定期のモニタリングやカンファレンスを通じて、現状確認と見直しの必要性について検討している。	アセスメントの充実や、個別性ある介護計画を実践に結びつけるよう、作成への職員の関わりや育成を図りながら、心身機能維持や活用に向けた実効的な支援へと結びつけていくことが期待されます。
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝、夕の申し送りで個別の変化を確実に伝え、情報を共有しながら個別記録に記入し、計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々の状況に応じて支援やサービス内容を考え直し、できるだけ本人や家族のニーズに沿えるようにしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への積極的な参加を支援したり、また施設での行事に近隣住民の参加を呼び掛けたりして交流を図っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に主治医を確認し、入居後も引き続き受診や往診が出来るような体制をとっている。無理に主治医を変えるようなことは行っていない。	入居時に、かかりつけ医について確認を行っている。家族との連携を活かした受診支援や、２週間に1回、協力医より往診体制が確立している。必要時には、歯科往診も可能となっている。看護職員３名が配置されている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日バイタルチェックを行いスタッフが確認した情報を看護師に報告し、必要時指示を受けている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関への入院時、サマリーでその情報を提供している。また入院時も面会に行くなどし、状況把握を行い退院時の流れもスムーズに出来るようにしている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設での看取りに関しては、入居時に方針を家族と話し合い決めている。また状況の変化などあった場合は、その都度家族と話を行い、家族の納得いく形をとれるようにしている。	入居字に、重度化した場合や終末期のあり方について、事業所としての方針を伝え、意向確認を行なっている。状況の変化に伴い、家族や医師との話し合いを重ね、方針の共有に努めている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的には行えてないが、緊急時に対応できるようにマニュアルを整備しいざというときには迅速な動きが出来るようにはしている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回は消防訓練を行い、そのうち1回は消防署の指導のもとで実施している。また訓練時は、近隣の方にご協力をお願いしている。	隣接する同法人事業所と合同で、年2回、夜間想定を中心とする避難訓練を実施している。地域への案内を継続しており、実際に参加、協力を得た実績がある。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介護理念を常に意識し、言葉や態度などには職員一人一人が注意をしている。	入居者個々人の理解に努め、「私たちは、入居者の方々を人生の先輩として尊びます。」という介護理念の実践に努めている。排泄ケアの際には、さりげない声かけや対応の工夫を行っている。気づいた事はその都度、お互いに注意し合い、意識を高めていくよう努めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症により、意思表現が出来ない方にも、日常の言動や行動から感じ取るようにしている。声掛けを多くし、コミュニケーションを多くとるように心掛けている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはおおよそ決まっているが、本人の意思を尊重できるようにレクリエーションや体操などは強制参加にしていない。本人のペースで過ごせるような支援を行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段も職員が声掛けをし、身だしなみを整えるように促している。レクリエーションでも化粧の日を作るなど、おしゃれが出来る場を提供している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	手作りのおやつなどをレクリエーションの一環として作っている。食事に関しては、入居者の重度化などもあり部分的な手伝いをしてもらっている。	法人厨房での調理となり、栄養士によるアンケート調査の実施や管理者会議へ参加することで、嗜好の把握や、サービスの向上に努めている。毎月1日の赤飯や、冬季には刺身も提供している。おやつ作りや外食の機会をもっている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の管理の下、食事提供を行っている。体調により、軟飯や刻みなどに変更可能である。水分補給は職員が気をつけて促したり、介助したりしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けをし確認をしている。就寝前には義歯洗浄を行ったり、個々の能力に応じた口腔ケアを心掛けている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立維持を保つために、日中・夜間の区別をしている。原則オムツやパッド類は、最小限にしトイレでの排泄が可能な方はなるべくトイレ誘導を行っている。	排泄状況を確認し、介護計画の中にも位置付けながら、個別の支援に努めている。身体状況や生活リズム、排泄用品や睡眠状況等を検討し、トイレ誘導や自立に向けた支援に努めている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	栄養面の事は栄養士、身体面の相談は主治医の定期的な受診を行うことで解決できている。最終排便はチェック表にて確認できるようになっており、水分摂取や運動などにも取り組んでいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的な曜日・時間は決まっているが、本人の意思や体調を考慮し柔軟に対応できるようにしている。	一日おきの入浴スケジュールは設定しているが、日曜日以外は入浴準備を行っているため、その日の希望や状況、体調等を鑑み、柔軟な支援に努めている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1日の予定をもって過ごされているが、ご本人の意思、体調を把握し訴え等考慮しながら過ごせるよう努めている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者様が服用されている内容の処方箋を、スタッフ全員が閲覧できるような管理を行っている。必要時、意見交換や書面をもって情報を流している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人差はあるが、本人の個性をとらえた支援が出来るようにしている。また本人の状態も把握し、負担のかからない活動をしてもらっている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の支援要請への対応、地域資源の活用の支援などなるべくニーズに沿ったサポートを可能な限り心掛けている。	希望や天候に応じて、周辺の花木や畑の様子を眺めながら散歩に出かけており、地域の方との会話を楽しむ機会もある。家族との連携を図り、買い物や馴染みの美容院の利用を継続している。近隣の御地蔵様までの散歩コースは定番となっている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭トラブルを防ぐため、認知症状態等に応じた金銭管理を行っている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から家族・友人等への電話の希望があれば支援を行っている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から使用しているなじみの品物を持ち込んだり、四季の花を飾ったり、スタッフと共同で作成した作品の展示を行っている。室温や湿度に関しては、職員が配慮しきちんと管理をし快適に過ごせるようにしている。	ユニットが増設されたこともあり、それぞれの雰囲気は異なるが、ゆとりある空間の中には、季節の花や、手作りの作品が飾られている。ウッドデッキで日光浴を楽しんだり、ソファーでの寛ぎの時間を過ごす方の姿も見られた。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の行動を抑制せず、本人の意思で自由にリビングや居室で過ごせるよう雰囲気を作っている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	古くなった物でも、本人の思いを第一として使い慣れたものを持ち込んでもらっている。なるべく自宅での生活環境と変わらないよう配慮している。	使い慣れた物や大切な写真が飾られ、個人の暮らしの空間として、居心地のよい居室環境作りへの配慮が行われている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全室バリアフリーで手すりやスロープも設置し、安全に過ごせるよう環境づくりを行っている。居室のネームやトイレも分かりやすく大きくしている。		